

十葉の花

布宮慈子やすこ

一齊みだうに御堂の畳を水拭きせりわが家に拭きしことなけれども
掃除機やモップ、雑巾よく動きお寺の掃除当番終はる
わづかづつ咲き始めたる睡蓮の白のあはひを抜けてくる風
クレーンに吊り上げられし墓石がひたり収まる墓所の一隅

地獄絵は飾らるるだらう旧盆に祖母と見たりき赤い火と餓鬼

「仙台の霊屋橋おたまやのミツルちゃん家へさ連れて行くぐがらな、七夕どぎん時」

仙台の七夕まつり近づけば祖母言ひたりき呪文のやうに

「仙台の七夕」と祖母は言ひしかど遂に行かれずサルビア赤し

祖母にとつていかなる街や仙台はみつこ入りし学校ありき

夏安居げあんご*を詠みしみつこの生きてあらば九十歳きうじふとなる 十葉の花

*僧侶が夏の一定期間外出しないで、一室にこもって修行すること。